

数学

名古屋大学 文学部、教育学部、法学部、経済学部、

情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 1 / 1

<全体分析>

試験時間	90分	解答問題数	3題
------	-----	-------	----

解答形式

全問 論述式。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）

出題の特徴

2003年以降、毎年出題されていた確率が出題されなかった。

本大学で頻出の微分法と積分法、数列、図形から出題された。

その他トピックス（入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など）

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	微分法と積分法	数学II	絶対値がついた関数の定積分の最小を調べる。	やや難
2	ベクトル	数学B	与えられた条件から正三角形、正四面体になることを示す。	やや難
3	場合の数 数列	数学A 数学B	領域Dに含まれる長方形の数を求める。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

微分法と積分法、数列、確率、整数、図形と方程式の分野は本大学で頻出の分野であるから、十分に対策をしておこう。また、3のような融合問題が出題されることも多いので、それに対応できる学力を身につけておかなければならない。

典型的な問題は必ず解けるようにした上で、やや難しい問題の演習を積む必要がある。加えて過去問を十分に研究し、問題文を正しく読み取る力、複雑な事象を整理する力もつけよう。

計算が複雑になることも多いので、どのように計算すればよいのかを常に意識しながら解いていくとよい。